

令和5年12月定例会 一般質問 小西高吉議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。（各議員からの「質問」（問）に該当する部分を黄色マーキングしております。）

「安心・安全に産み育てられるまちづくりについて」

○小西高吉 改めまして、おはようございます。

ただいま議長のお許しをいただきましたので、一般質問をさせていただきます。

今回も大きい項目として安心・安全に産み育てられるまちづくりについてということで、今回は中項目、学童保育の現状、改善、課題、そして中学校部活動の地域移行に向けた計画、方針についてをただしていきたいと思います。

それではまず最初に、学童保育の現状、改善、課題についてですが、学童に入所されている人数の推移、昨年12月議会の一般質問でのときにご答弁いただいているんですが、その際、令和4年度は1,120名、令和5年度は1,264名の、その当時は入所希望やったということで、これには多分民間の学童の人数は含まれていなかったように思います。

そこで、今回、香芝市全体、公立と民間を合わせた学童に通われている児童数の推移、令和2年度から令和6年度、6年度においても募集は終わっているのかなと思うので、各年度の児童数をお教えいただきたいと思います。

これで壇上からの質問とさせていただきます。ご答弁よろしく願いいたします。

○福祉部長 学童保育所の児童数の推移でございますが、まず令和2年度は1,327人、令和3年度1,280人、令和4年度1,366人、令和5年度1,474人、令和6年度につきましては、10月の申込数になりますけれども、1,539人で、コロナ禍の令和3年度は一時的に減少してございますが、令和4年度以降は増加傾向となっております。

○小西高吉 やはり、そのときは民間の学童の児童数は含まれていなかったということで。各年度ご答弁いただいたわけなんですけど、児童数が若干減ってきている中においても学童に通われている児童数は増えてきているということで。

次に、各年度の全体の小学校児童数の何%が学童保育所に通っておられるのか、その点お聞かせいただけますか。

○福祉部長 学童保育所を利用しております児童数の割合でございますが、令和2年度では25.8%、令和3年度では25.4%、令和4年度では27.6%、令和5年度では30.8%、あと令和6年度につきましては33.3%で見込んでございます。

○小西高吉 パーセントからいくと増えてきているという現状だということ。

次に、香芝市の学童保育に通われてる児童の人数の推移の分析について、昨年の一般質問で今後増えていくと、実際にこれ増えてきているわけなんです、そのときに増えていく予想されてるといふ答弁をいただいているんですが、その根拠お教えいただけますか。

○福祉部長 小学校児童数は減少しておりますが、令和4年度以降、利用率は増加傾向にございましたので、増加傾向にあると考えてございました。

○小西高吉 現在は児童全体の約30%強になってきてるんですかね、通われているということで。少子化になり、児童数本当に減ってくるという予想の中に、学童に通われる児童数は増えていくと。国でも予想されているわけなんです、今後、5年後、10年後の小学校の児童数の分析についてはいかがですか。

○福祉部長 小学校児童数でございますが、教育部のほうの所管課のほうで確認させていただいた数値でご答弁させていただきます。ただし、10年後の数値がないため、2035年の12年後で答弁させていただきます。5年後の小学校児童数は全体で3,948人、12年後の児童数につきましては全体で4,091人と予測をされております。

○小西高吉 5年後、10年後の資料がないということで、12年後ということで、これからいくと増えていると、この数字だけ言いますと、12年後には増えているということなんです、今度、学童に通われる児童数の分析、これで言いますと5年後、12年後になるんですかね、その児童数の分析をお教えいただけますか。

○福祉部長 5年後の学童保育所の児童数は全体で1,315人、12年後では全体で1,362人を予測しております。

○小西高吉 今、ご答弁いただいたわけなんです、数字と根拠がないと計画は立てていけないということから言いますと、5年後、12年後の小学校児童数、学童児童数の分析の根拠お教えいただけますか。

○福祉部長 小学校児童数につきましては、2029年、令和11年までは令和5年5月18日時点の住民基本台帳から抽出した人数を各学校区に当てはめて算出し、また2030年以降は国立社会保障・人口問題研究所が公表しております将来推計人口を各学校区に当てはめて算出したと所管課のほうからは聞いてございます。学童保育所の児童数でございますけれども、この算出されました小学校児童数に令和6年度の利用率を掛けて算出してございます。

○小西高吉 ありがとうございます。

次に、国の基準や市の条例に基づき学童保育の運営をすることが放課後の子供たちの有意義な時間につながると考えます。ここ数年、改善を求めて一般質問何回もさせていただいてるわけなんです、市の条例で定めている専用区画、これは児童1人当たりおおむね1.65平米以

上。ただ、1.65 平米に満たない学童、令和3年度は12 支援、そして令和5年度は4 支援まで減少していただいたと。これはかなり改善したということで、感謝申し上げますが。また、定員を超えて受入れを行っている学童は令和3年度で17 支援あったのが令和5年度では8 支援となっていると。こちらでも減少したということで、頑張ってお努力いただいた結果かなとは思っているんですが。学童利用者が増えているのに支援が減っているということは、計画的に学童の受皿を増やしていただけたと。ただ、まだ追いついていないのが現状だろうというように思います。今回、補正予算も上げていただいているわけなんですけど、真美ヶ丘東、西小学校の学童は児童1 人当たり、約、計算させていただくと、1.54 平米しかなく、また真美ヶ丘東、西小学校合わせて4 支援あるが、全て定員を超えての受入れとなっているのが現状だと思います。そして、志都美第2は1 人当たり約1.31 平米しかなく、志都美学童は改善がされていないのが現状です。香芝市は弾力的受入れとして、定員掛ける1.2 人の児童を受け入れていると。分かりやすく言うと、100 人しか入れないところに120 人を受け入れてると。真美ヶ丘東、西の学童では、この計算でも定員数を超えていると。真美ヶ丘東、西の学童の専用区画問題が解消されれば香芝市全体の学童は一定程度改善されるのかなというようにも思いますが、今後の市の考えをお教えいただけますか。

○**福祉部長** 今後につきましては、真美ヶ丘地域で新たに民間学童保育所の開設を予定してございます。また、新たに真美ヶ丘東小学校、また志都美小学校の余裕教室のほうを活用し、学童保育所としての利用を検討しておりますところでございます。

○**小西高吉** 検討していただいているということで、なるべく早くしていただかないと、検討検討という答弁が今までも多いので、ぜひお願いしておきたいと思うんですが。

次に、支援単位についてなんですけど、国の基準、市の条例でも1 支援単位はおおむね40 人以下。令和3年度は、志都美学童では1 支援単位の人数を大きく超える73 人になっていたと、日によっては74 人になったときもあったというような答弁もいただいているわけなんですけど。以前の一般質問でも指摘し、少し改善もしていただいたということですが、令和5年度は令和3年度と比べても改善がされていないと。また、1つの教室で50 人以上の受入れする学童は10 支援、60 人以上の受入れが2 支援となっている。実際に令和5年度で真美ヶ丘西の学童の66 人、真美ヶ丘東学童64 人、二上学童63 人と大きくオーバーしているわけなんですけど、これの改善のお考えですね。これはもう真美ヶ丘においては学童を増やすように考えておられるということなんですけど、その改善の考えをお教えいただけますか。

○**福祉部長** 学童保育所につきましては、出席率を加味した上で登録児童数を設定しておりますところでございますが、今後の支援単位につきましても、専用区画同様に、民間学童保育所による支援単位の拡充や、また余裕教室の活用によりまして、支援単位の拡充につなげていきたい

と考えてございます。

○小西高吉 令和3年度から3年かけて学童保育事業も本当にかなり改善していただけたと。以前にも言ったように、市長も議員時代から学童はできるだけ広い空間で過ごしてほしいということで、市長になってからも努力していただいていることだと思うんですが。ただ、なぜここまで改善が遅くなったのか。子供たちのために、もっと早くよい環境づくりに取り組まなかったのか。香芝市の学童保育事業の計画に問題があったのではないかとということにも考えます。香芝市は、専用区画、支援単位のおおむねの言葉を抜粋するとか、そういうことはできないのか。市長の意気込み、考えをお教えいただけますか。

○市長 児童数の動向を見ながら、引き続き学童保育所が子供たちにとって第2の家と、ここ意気込みとしては第2の家とさせていただけるように、環境改善には努めていきたいと思えます。

○小西高吉 それは十分分かってるんですよ。市長のお考えは、そこは分かってんけど。香芝市独自に、このおおむねという言葉を取り外すと。いつもおおむねという言葉で、今おおむねやから、超えてても、以下でもというようなご答弁多いわけなんですけど、そこまでの意気込みはないですか。どうですか。その点再度お願いできますか。

○市長 やはり児童数というのが読めない部分がありますんで、多少弾力的な要素が必要かなあというふうに感じておるところでございます。したがって、現在のところ、おおむねという表現はまだ残させていただきたいなというふうに思います。

○小西高吉 ぜひね、この香芝市においてはおおむね、条例的にはおおむねだけど、おおむねを取った状態の1人当たりの専用区画は1.65平米以上だと、支援単位においても40人以下だと言えるように、ぜひお願いしておきます。

ということで、この学童については以上で終わらせていただきますが、ただ、今も、コロナが落ち着いたにしても、インフルエンザがはやって、そういうやっぱり空間も広く、1人当たりの空間も広げていただきたいというふうに思いますんで、ぜひ進めていただきたいなと。

ちなみに、インフルエンザがここ最近広がったあれで、うちの4男、修学旅行がインフルエンザで行けなかったと。そのときに何人もの、もう10人近くの方がインフルエンザで行けなかったというのも実際ありましたんで。ぜひ広い空間、空間が広いからうつらないのか、そんなこともないとは思いますが、そういうことも考えていただけたらなというふうに、あえて言うておきます。

次に、中項目2として、中学校部活動の地域移行に向けた計画、方針についてをお伺いさせていただきます。

先月15日に福祉教育委員会として行政視察、愛知県半田市のほうに行かせていただいたわ

けなんです、それも踏まえながらというか、半田市は規模も全然違いますし、香芝市と一緒にということ、そうではないんで、なかなか難しいところはありますが、勉強はいい勉強させていただいたなというようには思っております。

そこで、1番目として、文部科学省として2023年度から2025年度の3年間を改革推進期間と位置づけ、部活動改革を進めていくとしている。香芝市も休日の部活動地域移行が少しだけ進み始めているのかなと思うんですが、ただ、受皿団体、指導者、受益者負担、保護者負担の問題など、乗り越えなければならない課題がたくさんあります。部活動の地域移行は、地域の実情に合わせた形で、スピード上げて進めていく必要があると思います。将来にわたり生徒がスポーツ、文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するためにも、困難な課題も多く、大変難しいとは思いますが、避けては通れない取組ではないかと考えております。

最初に、国、文科省の中学校部活動の地域移行に対する考えに変化はないのかという点を1つ目としてお聞かせください。

○まなび推進局長 スポーツ庁、文化庁につきましては、令和4年12月27日に学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインが策定されて以降、大きな動きは今のところございません。ガイドラインに示されたとおり、休日における学校部活動の地域連携や地域クラブ活動の移行につきましては、令和5年から7年度を改革推進期間として支援することとなっております。また、来年度も地域クラブ活動の移行に向けた実証は継続される見込みでございます。

○小西高吉 そうですね。なかなか国としても考えを変えていただくということはもうまずないと。期間がちょっとずれ込んできているのも確かだと思うんですが。

香芝市として、現在の部活動、形は変わるとしても、継続していくための努力はしていくのか、その点お聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 生徒が生涯にわたってスポーツや文化芸術に親しむ機会を確保することは、生徒の心身の健全育成などを図るためにも、地域クラブ活動として継続していく方向では考えてございます。

○小西高吉 ぜひ、そのためにご努力いただいとることはもちろん理解してはるんですけど。

次に、この部活動の地域移行の件で令和2年12月議会から一般質問させていただいてるわけなんです、いろんな問題を提起させていただいて、部活動の地域移行に向けた計画、方針についての質問をさせていただいてたと、令和2年から繰り返し質問させていただいてるんですが、ロードマップや計画は既に出て上がっているのか、お聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 現在、計画策定に向けて、香芝市地域クラブ活動推進会議におきまして様々なご意見をいただいとるところでございます。内容は、移行の時期、指導者や教員の兼

職兼業、あと受皿団体、受益者負担、また児童・生徒や保護者への周知などについてで意見をいただいております。いただいた意見を基に移行方法やスケジュールなどは今後事務局として検討を進めていくことになっております。

○小西高吉 結局、まだできてないということですね。

次に、令和2年より、早期にこの問題に取り組んできた、子供たちのためですよね。ほんで、スポーツや文化活動を子供たちが大人の無力さでできないことが懸念されるから、全国の市町村では既に計画を立てた地域もたくさんあると、県内でも進んでいる市町村もあるように聞かせていただくわけなんですけど、ただ、問題を意識された時期が、私が提案したの割と早い時期やったと思うんですよ。それにもかかわらず、部活動だけではなく、いろんな事業がもう全てにおいて遅いように感じるんですけど、時代の流れを読んだ中で着実に計画をしているのか。その点、市としてのお考えお聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 具体的な計画というものはございませんけれども、現在、生涯学習におきましては、毎年のスポーツイベントや教室を開催しておる状況でございます。今年度、令和5年度は、スポーツウイークとして、Jリーガーのサッカー教室とかアスレチックチャレンジとかを開催いたしました。事業の実施の主たる目的は、やっぱり生涯スポーツの振興でございます。スポーツを始めるきっかけづくりから競技の向上に至るまで、対象者に合わせたイベントを実施することでスポーツ人口の増加と健康増進を図ることが必要であると考えております。今後も、継続的には実施してまいりたいと考えております。

○小西高吉 いろんなイベントもしていただいているというご答弁あったんですが、確かにそうなんだろうけど、計画性がなかなか見えないというのが実際のところかなと思うんですけど。こういうネットで、部活動の地域移行の計画で、奈良県でしたら河合町が出てくるんですよ、これ。河合町部活動地域移行推進計画（案）という形で、実際にもう出されてるんですけど、これ今年の7月に提案というか出されてます。多分、河合町も割と議員さんが指摘するの私より遅かったんですよ。私が一般質問するのに河合町の議員さん見に来られて、その後されてるんですよ。そやけど、河合町においては、それは規模も人口も違う、児童数も違う、もちろん分かってるんですけど、ここまでもうされてると。こんなん、こういうことって、ほかの自治体の状況とかは確認はされてるんですか。その点お聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 特に他の自治体の活動、計画の状況等は調べてはおりません。

○小西高吉 なぜ。率直な質問として、なぜそういうほかの自治体とかの状況を確認されていないのか。そこにもヒントがあると思うんですけど。その点再度答弁いただけますか。

○まなび推進局長 部活動の地域移行につきましては、奈良県を中心に情報共有はさせていただいておりますけれども、どの自治体もなかなかやはり進んでいないという状況は把握はして

おりますけれども、こういった手法でするかというところまでの深掘りの調査はさせていただいておらない状況でございます。

○小西高吉 ほかの自治体を調べないっていうところになかなかやっぱり市民にとって真剣さがあるのかどうかっていうのがね。私自身もこれせつかく早くから指摘させていただいてるにもかかわらず、やっぱりほかの自治体の動向も見ながらしてもらいたい。奈良県にないんでしたら僕いいですよ。いいこともないけど、まだましなんです。そやけど、実際されてるんですよ。これはまだ案の状態ですから、どうなるか分かりませんが、割と細かくこれ書いておりますよ。指導者の報酬は時給1,600円程度、運営費等町負担で賄う方向を検討しますとか、いうのいろいろこれ書いてますよね。何で、ほんまに分らないんですけど。後にまたいろいろ聞きますんで、取りあえず置いときますが。

次に、部活動の地域移行の課題を前回は指摘させていただいて答弁いただいているんですが、大きな問題の一つとして受皿団体の問題。地域に移行した際に子供たちを監督管理する指導者が地域にいるかどうか。教員よりもその部活動に関して高度なスキルを持った人材がいる可能性もあると思います。そうした人材を確保するのに苦勞することが予想されると。競技によっては指導者が全く見当たらない可能性もある。今まで香芝市は市内のスポーツ、文化団体の育成や支援をやってきたのか。将来を見据え、しっかりと団体と人材を育成している地域は、この地域移行の問題にスムーズに移行してきていると思います。

先ほど冒頭に言いましたけど、愛知県半田市、もちろん規模も違いますけど、これは中学校校区に総合型地域スポーツクラブですかね、が半田市は5中学あって、5個のクラブがあるというようなことも実際言っておられました。ここはもう早くから、土曜日が休日になった時期から進めておられたということはもちろんあるんですけど、そっからいくと、やっぱりそういうことをやってるとこはスムーズにいくんだろうなと。逆に言えば、半田市の状況を国が見て、それをモデルにしてるのかなっていうようなこともその当時、先月感じさせていただいたんですけど、香芝市の今までの進め方はいかがですか。

○まなび推進局長 これまでスポーツの団体等につきましては、各種、文化も含めまして、関わりを持って情報共有等はさせていただいておりますけれども、部活動の受皿になるようなことを目的とした支援や育成は実際には直接的にはやってこなかったというのが現状でございます。今後どのように進めていくかは検討の必要があるとは考えております。

○小西高吉 それを目的にしてなかった。もちろん、そうでしょうね。これ急に、急についてうか、令和2年度あたりから出てきたお話ですけど。

次に、ほかの自治体の話を聞くと、団体の支援や育成を怠ってきた結果、受皿団体に困っておられると。現在進めている自治体に聞くと、以前より各種団体の支援、育成をしていると聞

くと。香芝市が支援、育成しているとする団体、受皿団体になっていただけるのかどうか。具体的には支援、育成していないというようなニュアンスですけど、そういう受皿になっていただける団体があるのかどうか、その点いかがですか。

○まなび推進局長 先ほども申しましたように、直接的に香芝市として支援や育成をしている団体はございませんけれども、現在、香芝市の地域クラブ活動推進会議におきまして、香芝市のスポーツ協会であるとか、現在実証事業の委託事業者、こちらの代表の方にも出席をいただいております、まず受皿として活動していただくことも、可能性を含めまして、ご意見をいろいろ伺っている状況でございます。

○小西高吉 ぜひ、しっかり進めていただきたいと。先ほどから香芝市地域クラブ活動推進会議でいろいろご検討いただいているということで、言いようによったら、そちらへ逃げておられるのかなという、市は、もう任せっ切り状態になってんのかというのは理解しにくいところもあるんですけど、その会議で皆さんいろんなご意見を出していただいているんだろうなというように思います。

今後、しっかりと各種団体と人材育成を市がバックアップしていただきたいと。団体や人材を育てていくことで持続可能な団体が生まれ、部活動も継続可能になると考えさせていただきます。団体の支援、育成に力を今後入れていくのかどうか、市のお考え、方針お聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 この団体に対しましては、直接的に支援や育成をするのではなく、こちらの考えといたしましては、団体自らが持続可能になるための人材育成の機運が高まるように、活動の提案をするなどのバックアップはしていきたいと考えてございます。

○小西高吉 バックアップ、どんな形になるか分からないんですけど、していただくということで、実際にどのような、具体的に言うと、どのような支援、育成ができるのか、するのかという点お聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 例えばですけれども、本年度はまちづくり提案活動事業補助金、こちらに対して新たに行政提案型事業といたしましてスポーツを通じた市民と地域の活性化事業を提案いたしましたところ2団体が採択を受けられまして、現在事業を進めていただいております。このように、活動の幅を広げる団体の事業に対して補助金をするなどの支援は実際に今後もできていくと思います。

○小西高吉 提案型の事業としてしていただいていると。もちろん、それは進めていただきたいと。ただ、団体等にもどういったバックアップをしてもらいたいのかということも実際に声を聞いていただいたらいいんじゃないかなと思います。こっちから押しつけだけでなく、もちろんしていただくのも必要やけど、向こうの声も、どういうことを求めておられるのか、そう

いうのも聞いていただくのも一つかなと思いますので、ぜひお願いしておきます。

次に、香芝市の部活動地域移行を実際に考えていくと、教員の先生方の力なくして部活動の存続はもう不可能やろうなというように考えます。そっからいくと、先生方が休日の部活動も指導していただくことを想定する兼業兼務の問題が出てくるわけなんですけど、教育委員会と校長の判断でそれはできるというようには思います。来年度より、モデルケースで先生の兼業兼務を認めた、実際に受皿団体に先生が登録していただいて、モデルケースとして行ってみる、そんな取組が必要だと考えるんですが、香芝市のお考えお聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 職員の兼職兼業については大きな課題だと考えております。来年度の地域クラブへの移行に向けた実証事業におきましては、教員が兼職兼業の形で地域の指導者として検証を行うような検討してございます。

○小西高吉 兼業兼務という実証実験というか、されていくようなことも今検討中ということですね。そこには多分費用も発生してくるのかなと思うんで、ぜひ進めていただけたらというように思います。

それで、昨年的一般質問でワンストップ支援の体制やコーディネーターの設置について提案させていただいた際、今後は学校支援室とスポーツ、社会教育の担当課である生涯学習課が中心で人材集め等について検討するというように答弁いただいているんですけども、その後、具体的にどのように連携し、人材集めをどのように行ったのか、人材は見つかったのかという点お聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 現在では、具体的な人物までは確定はできてございません。香芝市の現状からいたしますと、教員で兼職兼業を希望される方に地域人材として指導していただくことも考える必要がございます。各校と連携を図りまして、学校現場の働き方改革を進めることで兼職兼業もより容易となるように体制を構築していきたいと現在考えておるところでございます。

○小西高吉 ぜひスピードを持って進めていただきたいと思うんですが、この部活動地域移行は、子供たちの活動の場を守れるかということを考えながら進めていかないといけないと。地域移行をスムーズに適切に行うためには、ワンストップ支援組織の構築が必要不可欠になると思います。ワンストップ組織をつくり、コーディネートするコーディネーターを配置し、行政、中学校、地域、各種団体が一緒になって進めていくべきだと考えるんですが、市のお考えお聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 議員ご指摘のように、やはり行政のみで推進していくのではなく、各種関係者や関係団体との連携は必要であると考えてございます。現在、事務局として案を調整しているところでございますので、適切な時期に周知や意識調査も含めて行いまして、関係の皆様との協力を得たいと考えてございます。

○小西高吉 ぜひお願いしておきます。ただ、このコーディネーターの配置っていうところには触れていただけないっていうのはちょっとあれなんですけど。

次に、コーディネーターの費用は基本的に現在全額国費で賄えるというように聞かせていただいているんですが、その点はいかがですか。

○まなび推進局長 現在の情報でございますけれども、スポーツ庁によりますと、令和6年度の実施の要領等は来年の1月をめどに示される予定ということでございますので、現在は全額になるかどうかは未定でございます。

○小西高吉 もし、国費ですよ、多分令和7年度までというお話になってくるんですけども、この国費で全額賄えるとするのであれば、絶対に進めるべきだと思うんですが。

ちなみに、香芝市で適任団体もしくは適任者になれる方はおられると認識されてるんでしょうか。その点お聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 国費の負担割合はまだ確定はしておりませんが、現時点では方向性を定めるために情報収集を行っている状況でございます。

将来的には移行に向けてのアウトソーシングについても、香芝市の地域クラブ活動推進会議におきまして、ご意見を参考にいたしまして検討を進めていきたいと考えてございます。

○小西高吉 ぜひ、全額であろうが、半分であろうが、国が補助していただけるというのであれば、もう正直ね先ほどもおっしゃられてましたけど、市だけではもうなかなか難しいと。その中で、推進会議ですかね、これも設置していただいて、そこでもご議論いただいているわけなんですけど、こういうのしっかり活用するべきやと思うんですよ。国も、なかなか難しいだろうということでこういう提案も、コーディネーターの提案もされてきてるんだろうと思うので、ぜひお願いしておきます。

次に、大きな次の課題として、受益者負担の問題ですよ。私は、部活動は教育であり、どの子も、どのような部活動でも安心して、そして無償で行うべきものだと考えています。また、中学生が部活動で得る経験、学習は貴重なものがあり、自分がやりたいものを自由に選択し、どの子も平等に取り組めるようにしなければならない、家庭の経済状況などによって子供の選択の自由が制限されてしまうようなことがあってはならないというように思います。地域移行になっても同じだと考えるんですが、市のお考えお聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 国のほうでは、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革についての中身のほうでは、保護者が負担することや、地域、自治体が減免措置等を講ずることが適切であると考えてございます。香芝市におきましても、活動の質や持続可能性の保証のためには、将来的には受益者負担も視野に入れて検討する必要があると考えてございます。

○小西高吉 いろいろお考えいただきたいと思うんですけど、基本的に今まで無償でできてた

ことが、国、自治体の判断というかね。これはもう教職員さんの働き方改革が一番の基にあると。ただ、今もう、先ほどもおっしゃられたけど、部活動改革、愛知県の半田市さんも部活動改革だというようにおっしゃってありました。ぜひ、その点も考えながら進めていただきたいと思うんですが。この地域移行が進むことで外部指導者への報酬や活動場所の使用料などが発生し、それらの費用は保護者負担となる可能性が、先ほども保護者負担というか受益者負担というお話がありました。高くなると思うんですね、この可能性が。また、活動場所が学校から遠い場合は子供たちの送迎が必要になってきて、送迎費用がプラスでかかる。家庭の経済状況などによって部活動に参加できる子供とできない子供ができてしまう可能性もあります。こうした部活動費の負担増について保護者の合意を得られるかどうか、も大きな課題の一つだと思うんですが。また、経済的に厳しい家庭ではスポーツや文化に触れることがなく成長するケースも考えられてきます。市として本当にどのように費用負担を考えているのか。具体的にお考えあったらお教えいただけますか。

○まなび推進局長 市といたしましても、可能な限り保護者の負担が少なくなるように設定するためには、市の負担についても検討が必要だと考えています。負担減のための措置につきましては、国のほうでも、これまで保護者や地方自治体による負担等が行われていない実態や休日に教師が部活動へ従事する場合における現行の特殊勤務手当を考慮しつつ、国による支援方策につきましても検討するというふうにされていますので、国や県の動向を注視いたしまして、低所得者世帯への支援も改めて検討を進めてまいりたいと考えております。

○小西高吉 いろんな自治体のことも研究しながら進めていただきたいと思うんですが、本当に子供たちが、はっきり言うて、お金がないためにできないとかということのないようにだけ、ぜひ進めていただきたいと思うんですが。

ちなみに、これ子育てしやすいまち香芝市では現在保育料が無償化になっているわけなんです。この園児の無償化の年間予算ちょっとちなみに聞かせていただけますか。

○福祉部長 第2子以降無償化の経費をお聞きいただいておりますが、令和5年4月分の保育料額より算出しました結果、延べ対象人数は4,260人で、事業費といたしましては約9,200万円を見込んでございます。内訳としましては、歳出では施設型給付費としまして約4,850万円、歳入では保育料減額分といたしまして約4,350万円でございます。

○小西高吉 9,200万円ということで、大きなことをしていただいているし、喜んでおられる方も多くおられるのも事実です。

その中で、ちなみに小学生、中学生に対しての何かこういった無償化っていうのをされているんでしょうか、香芝市として。いかがですか。

○まなび推進局長 小学校、中学校は義務教育でございますので、学費や教科書代というのは

もともと無償になっております。

なお、現在やっておりますのは中学校の3年生の3学期分の給食無償化の事業だけになってございます。

○小西高吉 そうですね。教科書で僕らでも払った記憶全くないんで、それはそうだろうと思う。これも全国同じことだと。

香芝市としてされておられる中学校の3年生の3学期分の給食、これ多分3学期ってなると受験とかで昼までとかというのも増えてきて、その分減るというのもあつてのことなのかなというように理解するんですけど、ないより、していただいているということなんで、それはそれでありがたいんですけど、やっぱり子育て世代としても乳児、園児、児童・生徒の支援が必要だと思うんですよ。税の公平性の観点からも、児童・生徒へも支援制度があっても本来いいと思うんですが、市のお考えお聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 現在、低所得者に対する行っております就学援助制度につきましては、今後も継続的に、状況を把握しながら、必要に応じて見直していく必要があると認識はしております。

まず、地域クラブ活動に関わっては、可能な限り保護者負担を少なく設定できるような仕組みづくりを目指すとともに、支援方策に関しましても、国や県の施策も考慮しながら、市の方策については検討を図ってまいりたいと考えております。

○小西高吉 もう、ぜひ、やっぱり公平性から考えるっていうよりも、子供らにもっと予算をつぎ込んでいただきたい。そのためには財源が確保されないといけないということも、いろいろ問題も出てくるとは思うんですけど。

次ね、子供の貧困、教育格差の問題を解決するために、教育バウチャー制度の導入をしていただきたいというように思うんですが、教育バウチャーとは、学習塾や習い事などの学校外での教育サービスに限定して利用することができるクーポン。子供たちは、学校内での教育のみならず、学校外での教育を受けることで、自分でも気づかなかった新たな才能を発見できるかもしれない。また、その才能をさらに伸ばせるチャンスを与えられることは、子供たちの夢の実現を後押しするとともに、次世代を担う人材の育成につながり、香芝の将来にとって有益なことだと考えます。この制度を使用し、今までどおり自分でやりたいスポーツ、文化活動ができるよう、改革推進期間が終わる令和8年度に間に合うように実施ぜひしていただきたいと思うんですが、この点市長のお考えお聞かせいただけますか。

○市長 まず、第2子以降の保育料の無償化と小学生の差別、税負担制で差があるのじゃないかというふうな声に関しまして、第2子以降保育料を無償化にすることによって、香芝においては2人目、3人目がより子育てしやすいというふうな政策の過程でやらせていただいているこ

とでございます。

そして、今、教育バウチャーのお話をいただきました。これは格差ができるんじゃないかと、貧困家庭との格差ができるじゃないか、部活動の機会を均等にすべきだというふうなご意見だと思います。そうなった場合、教育バウチャー、例えば月 5,000 円と考えた場合、5,000 円掛ける児童・生徒数全てとなるとなかなか金額になるというふうに思われます。そしたら、今のトレンド的には、例えばまず給食費からやるべきではないかと。これも公平性ということから考えたら一つ可能性として上がるのかなと。そして、公平にするのであれば、やはり低所得者世帯、ここに対する手厚いことをしていかなければならないとなった場合、例えばバウチャーをすることも所得制限を設けなければならぬのかなというふうには考えます。では、一番現実的なのは今津崎が申したように就学援助費、ここの部分に何らかの部活動費ということをするによって低所得者世帯をすくい、機会を平等にできるのかなあというふうには考えております。

○小西高吉 そうですね。もちろん、それはそうだろうとは思いますが。ただ、やっぱり、もちろん、給食費を全額無償にさせていただくとかというのも、平等性からいくと、そうなんだろうとは思いますが。今までの子供においては無償だった部活動が有料になると、有償になると、受益者負担しなければならないというところに疑問を感じるわけなんですよね。ただ、これ多分財政的に裕福であればできるところが多分多くあるのかもしれないですよ。そやけど、この香芝市においては、何かこれやってもらいたいって言ってもなかなか進めていただけない、財源がない、予算がないという答弁も多々あるわけなんです。ちなみに、これ市で実施するためには本当に多額の予算が必要なるというのも十分分かってるんです。ただ、財源確保するためにも財源を生む企画というのが本当に少ないのではないかなと、この香芝市においてね。この間、前回というか、以前にも提案しておりますが、人工芝を活用し、交流人口増による地域活性化の具体的には提案もさせていただいてるんですよ。県民グラウンドでどうですかと。あのマウンド、ピッチャーマウンドがっていう話もあって調べたら、移動式のマウンドもあるということまで提案もさせていただいてると。もちろん、そのときは体育館のほうを先にしなければならぬと。それはもうもちろん分かってるんですけど、見えないんですよ。やろうって、検討しますという答弁多々あるんですけど、全然見えてこない。本当に前向いて進めるのかなってというのが。そやから、何回も言わないけないというのはね。何か言わなかったら、こうやって質問しなければ、もう止めてしまうんじゃないかなっていうように思ってしまうんで、言いつ放し、聞きつ放しにならないように、これくどく何回も質問させていただいてるんですけど。そんな全体を通した中で、今言った中で、市のお考えお聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 まず、部活動の地域移行につきましては、現在国や県のほうもいろいろ検

討しているところでございます。財源確保につきましては、そちらのほうも注視しながら、持続可能な活動に向けて検討していきたいと考えております。

もう一つ、体育施設に関しましては、まず安全性の担保からも、老朽化施設から改修していく必要性がございますので、今後におきましても、施設の状況を確認しながら、優先順位をつけて、順次整備を進めていきたいと考えております。

○小西高吉 ぜひ進めていただきたいんですけど、使用料も値上げされるようになったわけなんですけど、そんなも踏まえた中で、値上がりしたけど、こういう施設になってよかったわとか、価値あったわとか、やっぱりどうせやったらそこまで思ってもらえるような、そんなことも必要だと思うんですけど、その点副市長どうですか。財源を生むようなことを考えていったときに、香芝市って目玉になるっていうのはなかなかないですよんか。二上山、どんづる峯言ってますけど、そこでお金が使っただけでるのかどうかっていうのも分かんない、見えないという、前回のときもそんな効果はないっていうお話もあったんですけど。そういう財源確保のための、いろんな意味で、何かこういうのを考えていきたいとかという、そういう何か提案的なことがあれば、副市長の立場で少しお答えいただけますか。

○副市長 財源確保というところの中で、ふるさと納税につきましても苦慮しているところではございます。新たにどういった財源確保ができるかというところは、少し長い検討も必要かと考えてございますので、改めて考えてまいります。

○小西高吉 ぜひ、やっぱり考えていただきたいんですよね。いろんな問題が出てくるにつれ、やっぱり予算がないという、提案いろいろさせていただいても、予算がないというお答えが多いように思いますので、ぜひ市一体となって進めていただきたいと思うんですが。

この部活動においてもなんですが、ぜひほかの自治体のこともしっかり研究していただいて、やっぱり後れを取るイコール子供たちに迷惑がかかるっていうことですよんね。子供たちに直接いく案件なんでね。学童においてもそうですが。そやから、この香芝市において後れを取っていただかないために早くから提案も提言もさせていただいたわけなんで、ぜひそういう形で進めていただきたいと思うんですが、最後、教育長、一言意気込みをお聞かせいただけますか。

○教育長 失礼いたします。部活動について、特に、先ほど議員おっしゃられたように、子供に負担のないようなことをできるだけ考えていきたい。それから、他市町村とのやり取りについても十分今までもしておりますし、これからもしていきたいと。ただ、先に進み過ぎると負担増になっていく場合もございますので、今慎重に考えてるところでございます。

○小西高吉 ぜひ、子供たちに迷惑かけないというか、将来の夢を摘むことのないように、しっかり市として教育委員会として進めていただきたいと強くお願いしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。